

マニュライフ・ 円ハイブリッド債券 インカム・ファンド (3ヵ月決算型)/(年1回決算型)

追加型投信 / 内外 / 債券

販売用資料 2025.1

■三菱UFJ銀行からのご留意事項

◎当ファンドは預金ではなく、三菱UFJ銀行は元本を保証しておりません。また、預金保険制度の対象ではありません。 ◎投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、価格変動リスク等があり、お受取金額が投資元本を大きく下回ることがあります。したがって投資元本および運用成果が保証されているものではありません。 ◎ご購入に際しては、購入時手数料および保有期間中の運用管理費用(信託報酬)等の費用がかかります。 ◎ご購入に際しては、必ず最新の「投資信託説明書(交付目論見書)」および「目論見書補完書面」により商品内容をご確認のうえ、ご自身でご判断ください。 ◎当ファンドをお取引いただくか否かが、三菱UFJ銀行におけるお客さまのほかの取引に影響を与えることはありません。 ◎当ファンドの購入代金に充当するための借入を前提とした購入申込みはお受けできません。

〔金融商品仲介口座を通じたご購入について〕

●当ファンドは三菱UFJ銀行の投資信託口座のほかに金融商品仲介口座(三菱UFJモルガン・スタンレー証券の証券取引口座)を通じたお取扱いをしております。 ●金融商品仲介口座を通じたご購入に際しては、あらかじめ三菱UFJモルガン・スタンレー証券の証券取引口座の開設が必要です(金融商品仲介口座の開設をお申込みいただくと、お取引口座は三菱UFJモルガン・スタンレー証券に開設されます)。

ご購入の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。投資信託説明書(交付目論見書)は、三菱UFJ銀行の本・支店までご請求ください。

投資信託口座を通じたお取扱いの場合

お申込み・販売会社は



三菱UFJ銀行

株式会社三菱UFJ銀行
登録金融機関 関東財務局長(登金)第5号
加入協会：日本証券業協会／一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

金融商品仲介口座を通じたお取扱いの場合

お問合せ・ご照会



三菱UFJ銀行

株式会社三菱UFJ銀行
登録金融機関 関東財務局長(登金)第5号
加入協会：日本証券業協会／一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

委託金融商品取引業者・販売会社は

三菱UFJモルガン・スタンレー証券

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2336号
加入協会：日本証券業協会／一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

三菱UFJ銀行の苦情処理措置および紛争解決措置は一般社団法人全国銀行協会または特定非営利活動法人証券・金融商品あっせん相談センターを利用します。
全国銀行協会相談室：0570-017109 / 03-5252-3772、証券・金融商品あっせん相談センター：0120-64-5005
受付時間：月～金曜日 / 9:00～17:00(祝日・12/31～1/3等を除く)

設定・運用は

「円ハイブリッド債券インカム・ファンド」を選ぶ理由

「円建ハイブリッド債券」の利回りは、
他の国内債券と比較して相対的に高い水準となっています*。

これは、ハイブリッド債券には
信用リスクやハイブリッド債券固有のリスク相当分が
上乗せされていることが理由ですが、
ハイブリッド債券固有のリスクの分析は容易ではありません。

また、個人投資家の皆様が、
円建ハイブリッド債券市場に直接アクセスする機会に限られています。

マニユライフ・インベストメント・マネジメントは、
当ファンドを通じて、個人投資家の皆様に
魅力的な投資機会をご提供してまいります。

* 2024年10月末現在

当資料のいかなる内容も将来の投資収益を示唆・保証するものではありません。
「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

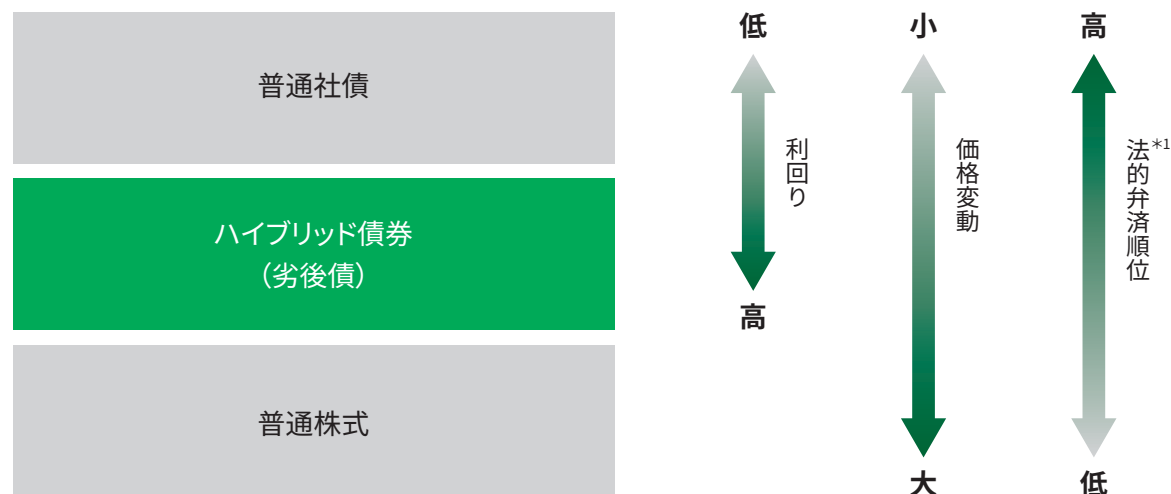
当ファンドのポイント

- 1 主な投資対象は
相対的に高い利回りが期待できる円建ハイブリッド債券
- 2 投資銘柄の多くは
知名度の高い日本企業が発行する投資適格債券
- 3 日本債券運用で高い実績を誇る
マニユライフ・インベストメント・マネジメントが運用

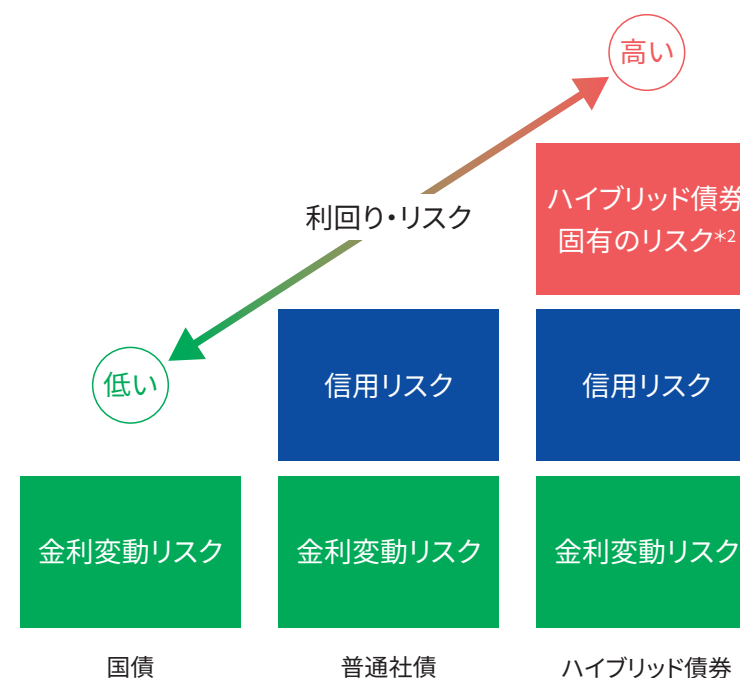
ハイブリッド債券の概要

- ハイブリッド債券は、債券と株式の中間的な特徴を有する債券です。
- ハイブリッド債券は、発行体が法的整理や破綻処理等に至った際の債務の弁済順位が一般の債権者よりも劣後することから、劣後債とも呼ばれます。
- 普通社債と比べて債務の弁済順位が劣ること等から、通常、格付けは同じ発行体が発行する普通社債より低くなる一方で、利回りは相対的に高くなります。

ハイブリッド債券の特徴



利回りとリスクの関係



*1 法的弁済順位とは、発行体が倒産等になった場合、債権者に対し残余財産を弁済する順位です。

*2 ハイブリッド債券固有のリスクについてはP.15をご参照ください。

※上記はハイブリッド債券の特性等を単純化して示したものであり、すべてのケースに当てはまるとは限りません。

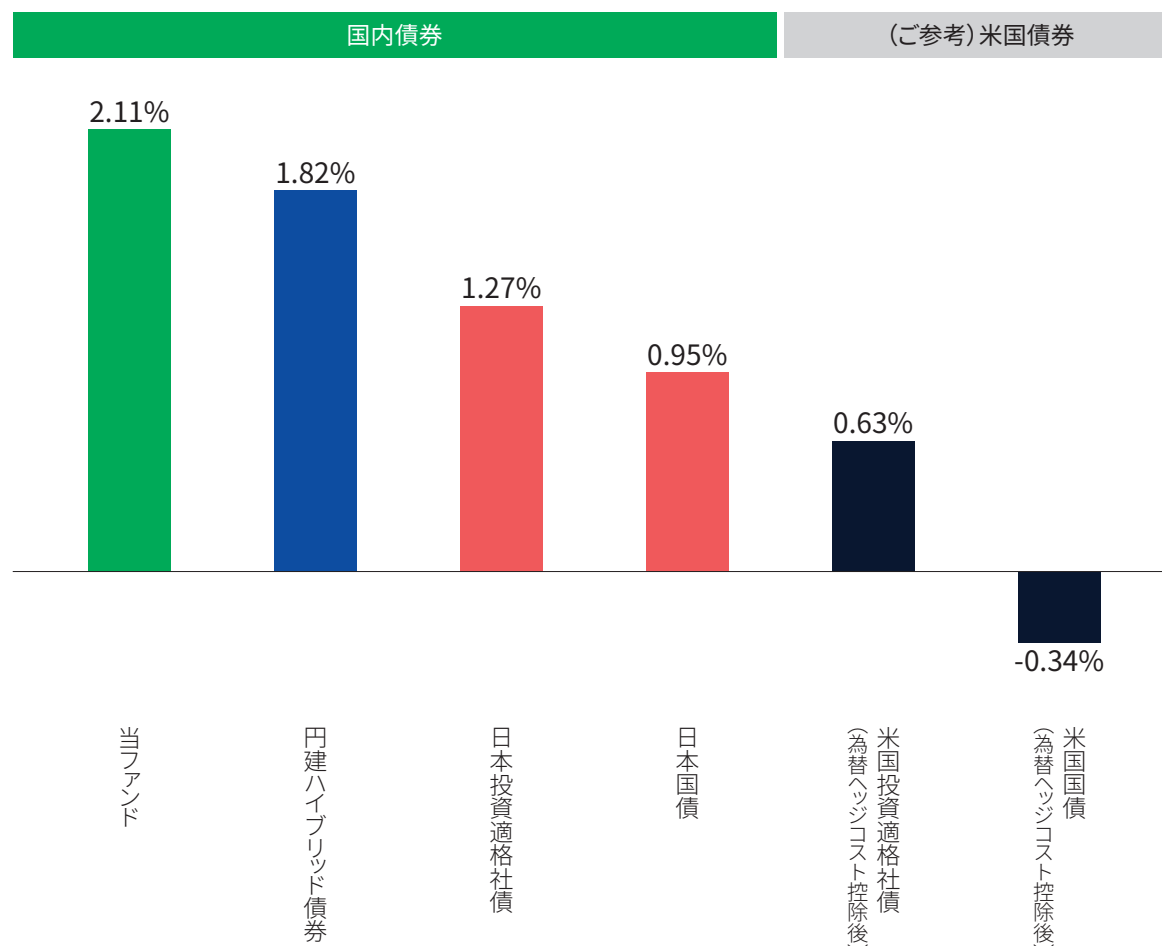
※上記は当社が説明のために作成したイメージ図です。

当資料のいかなる内容も将来の投資収益を示唆・保証するものではありません。「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

相対的に魅力的な利回り

- 信用リスクやハイブリッド債券固有のリスクが存在するため、円建ハイブリッド債券の利回りは他の国内債券と比較して高い水準にあります。(2024年10月末現在)
- 当ファンドの利回りは、円建ハイブリッド債券市場と比べても高い水準となっています。

利回り比較 (2024年10月末現在)



※ハイブリッド債券のリスクについては、P.15～16をご参照下さい。

※当ファンドはファミリーファンド方式により運用を行っており、「円ハイブリッド債券インカム・マザーファンド」(以下「マザーファンド」ということがあります。)で保有している債券現物を時価加重平均した利回りを記載しています。マザーファンドには信託報酬等の費用はかかりませんが、「マニユライフ・円ハイブリッド債券インカム・ファンド(3ヵ月決算型)/(年1回決算型)」には信託報酬等の費用がかかります。

※円建ハイブリッド債券:2024年10月末時点で取得可能なすべての円建ての劣後債について最終利回り(コール条項があるものは繰上償還日を考慮)を加重平均して算出、日本投資適格社債:NOMURA-BPI/Extended事業債(7-11年)、日本国債:ブルームバーグ算出の日本ジェネリック10年国債、米国投資適格社債:ブルームバーグ米国社債インデックス(7-10年)、米国国債:ブルームバーグ算出の米国ジェネリック10年国債

※為替ヘッジコストは日本円と米ドルの1ヵ月先渡為替レートおよびスポットレートを使用し、年率換算して算出しています。為替ヘッジコストは長期で固定されるものではなく、市場環境等により変動します。

※各資産は特徴やリスク等が異なるため、利回りのみをもって一概に比較できるものではありません。

出所:ブルームバーグのデータをもとにマニユライフ・インベストメント・マネジメント株式会社が作成

当資料のいかなる内容も将来の投資収益を示唆・保証するものではありません。
「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

投資対象は投資適格の円建ハイブリッド債券

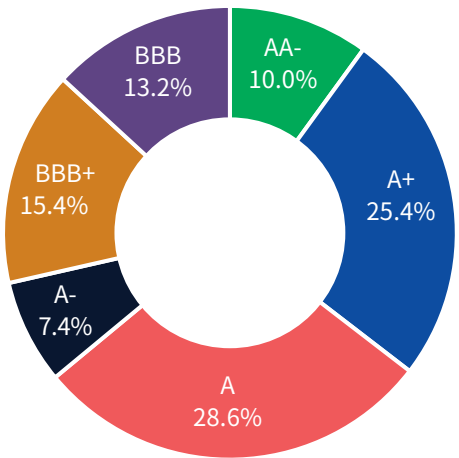
- ・格付会社からBBB格相当以上の格付けを付与された債券を「投資適格債券」と呼びます。
- ・投資適格債券は相対的に信用力が高く、債務不履行（デフォルト）リスクが低いとされています。
- ・当ファンドは投資適格の円建ハイブリッド債券を主な投資対象とします。

※ハイブリッド債券は、発行体の経営破綻等、一定の劣後事由が発生した場合に、元利金の支払い順位が普通社債などよりも低くなります。

債券格付けと定義

	R&I	JCR	格付定義 (JCR)
投資適格格付け	AAA	AAA	債務履行の確実性が最も高い。
	AA	AA	債務履行の確実性は非常に高い。
	A	A	債務履行の確実性は高い。
	BBB	BBB	債務履行の確実性は認められるが、上位等級に比べて、将来債務履行の確実性が低下する可能性がある。
投機的格付け	BB	BB	債務履行に当面問題はないが、将来まで確実であるとは言えない。
	B	B	債務履行の確実性に乏しく、懸念される要素がある。
	CCC	CCC	現在においても不安な要素があり、債務不履行に陥る危険性がある。
	CC	CC	債務不履行に陥る危険性が高い。
	-	C	債務不履行に陥る危険性が極めて高い。
	D	D	債務不履行に陥っているとJCRが判断している。

当ファンドの格付別構成比
(2024年10月末現在)



※ハイブリッド債券のリスクについては、P.15～16をご参照下さい。

※債券の格付けとは債券の元本、利息の支払いの確実性の度合いを示すもので、信用格付会社が各債券の格付けを行っています。

※格付けの符号については一部省略して表示しています。

※上記の「債券格付けと定義」は一般的な格付けと利回りの関係を示したものであり、すべてのケースに当てはまるとは限りません。

※上記の「当ファンドの格付別構成比」はマザーファンドのポートフォリオの状況を記載しています。

※構成比は債券現物部分について計算しています。

※数値を四捨五入しているため合計値が100%にならないことがあります。

※組入債券の格付けは、R&I、JCR、S&P、Moody'sの銘柄格付けをもとに当社が独自の基準に基づき付与したものです。

出所：ブルームバーグ、R&I、JCRの資料をもとにマニュライフ・インベストメント・マネジメント株式会社が作成

当資料のいかなる内容も将来の投資収益を示唆・保証するものではありません。「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

発行体は知名度の高い日本企業が中心

- 円建ハイブリッド債券は幅広い業種の発行体から発行されています。
- 発行体は日本を代表する馴染みのある高格付けの企業が中心となっています。

(ご参考)円建ハイブリッド債券の発行企業の例

銀行			保険			事業会社		
								
発行体名	R&I	JCR	発行体名	R&I	JCR	発行体名	R&I	JCR
三菱UFJフィナンシャル・グループ	AA-	AA	日本生命保険	AA+	AA+	ENEOSホールディングス	A+	AA-
三井住友フィナンシャルグループ	AA-	AA	明治安田生命保険	AA	AA	日本航空	A-	A
みずほフィナンシャルグループ	AA-	AA	住友生命保険	AA	AA	ソフトバンクグループ	-	A
三井住友トラストグループ	AA-	AA	損害保険ジャパン	AA	AA+	パナソニックホールディングス	A	-
商工組合中央金庫	AA-	AA+	三井住友海上火災保険	AA	AA+	三菱商事	AA	-

※一般的に、ハイブリッド債券の格付け（銘柄格付け）は、発行体格付けよりも低くなる傾向があります。

※個別の銘柄・企業名はハイブリッド債券の発行体の一例としての参考情報であり、当社が特定の有価証券等の取得勧誘や売買推奨を行うものではありません。また、将来の組入れを示唆または保証するものではありません。

※上記の格付けは、2024年10月末現在の各企業の発行体格付けを記載しています。

出所：R&IおよびJCRのデータをもとにマニユライフ・インベストメント・マネジメント株式会社が作成

当資料のいかなる内容も将来の投資収益を示唆・保証するものではありません。「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

日本債券運用で高い実績を誇る運用チーム (2024年9月末現在)

- 日本債券運用チームの人員数は12名、平均経験年数は19年です。日本債券の運用受託残高は約1.7兆円にのびります。
- 当運用チームが受託する日本債券運用の代表口座は、類似カテゴリーの運用実績ランキングで上位の実績を誇ります。

日本債券運用チームの主要メンバー



津本啓介
運用責任者
取締役 債券運用本部長
経験年数:35年



長藤徹志
当ファンド運用担当者
債券運用部長
経験年数:29年



押田俊輔
クレジット調査部長
経験年数:23年

当運用チームが受託する日本債券運用の代表口座の期間別運用実績 (2024年9月末現在)

	過去3年	過去5年	過去7年	過去10年
類似カテゴリー*1ランキング	11位 (27本中)	4位 (27本中)	2位 (26本中)	3位 (26本中)
運用実績 (年率)	-1.84%	-0.94%	0.20%	0.88%
(ご参考) NOMURA-BPI総合*2 (年率)	-2.18%	-1.67%	-0.65%	0.14%

※上記は日本債券運用チームが受託する日本債券運用の代表口座の期間別運用実績であり、当ファンドの運用実績ではありません。

*1 対象はeVestmentで取得できるMercer日本債券アクティブ・ユニバースに属するファンド・口座です。当該評価は過去の一定期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

*2 日本の公社債 (国債や社債など) 市場の動向を表す代表的な指数

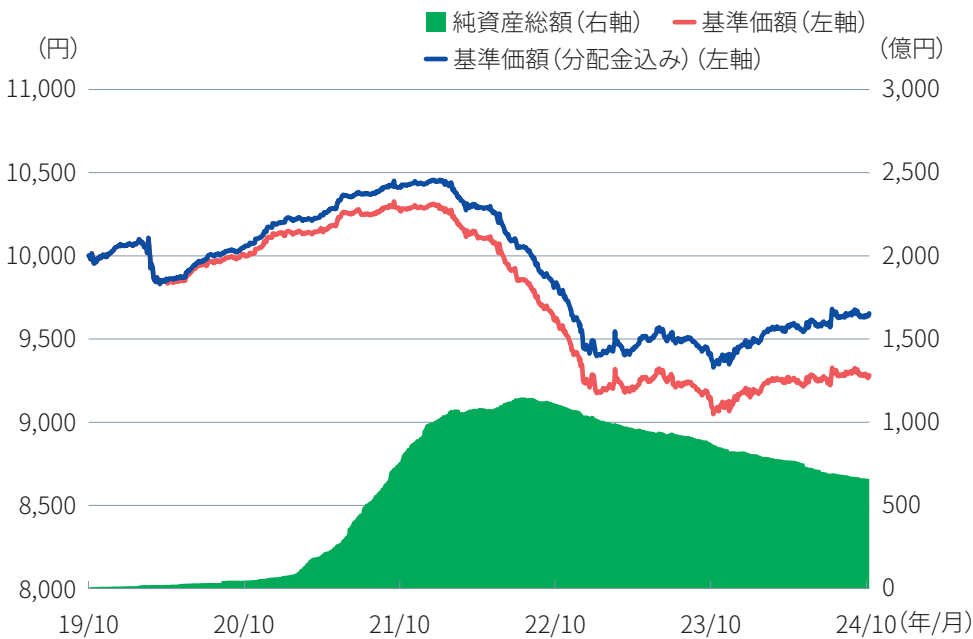
出所: eVestmentのデータをもとにマニユライフ・インベストメント・マネジメント株式会社が作成

ファンドの運用状況 (2024年10月末現在)

マニュライフ・円ハイブリッド債券インカム・ファンド (3ヵ月決算型)

基準価額および純資産総額の推移

(2019年10月25日～2024年10月31日、日次)



分配実績 (1万口当たり、税引き前)

決算期	第15期 2023/7	第16期 2023/10	第17期 2024/1	第18期 2024/4	第19期 2024/7	第20期 2024/10	設定来 合計
分配金	20円	20円	20円	20円	20円	20円	380円

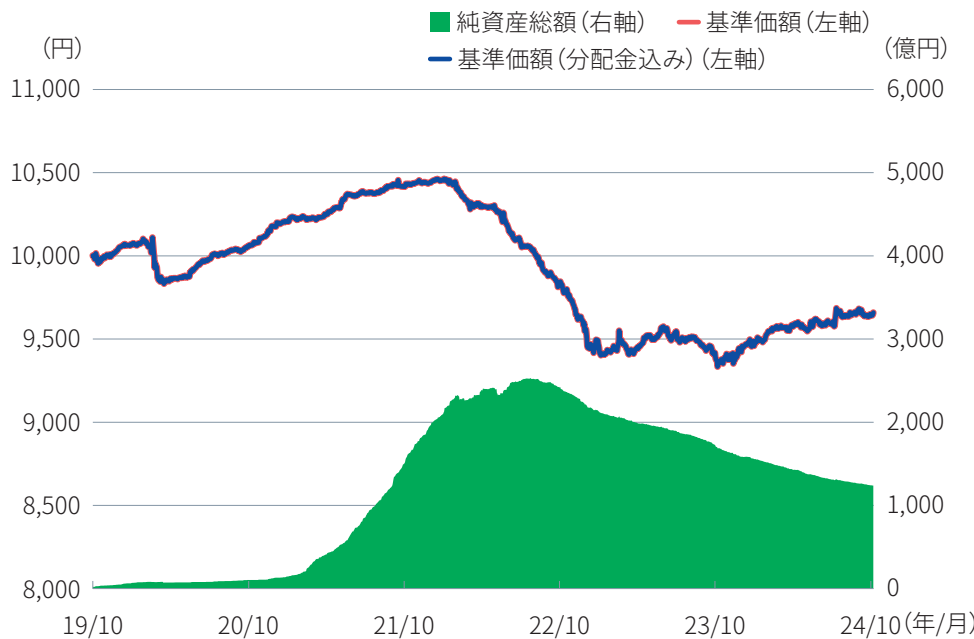
※基準価額、基準価額 (分配金込み) は、信託報酬等控除後の1万口当たりの値です。
※基準価額 (分配金込み) は、税引き前分配金を全額再投資したものと計算しています。また、換金時の費用、税金等は考慮しておりません。
※収益分配は一定の金額をお約束するものではなく、分配対象額が少額の場合には、委託会社の判断で分配を行わないことがあります。
※分配実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。
※当該運用実績は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

当資料のいかなる内容も将来の投資収益を示唆・保証するものではありません。「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

マニュライフ・円ハイブリッド債券インカム・ファンド (年1回決算型)

基準価額および純資産総額の推移

(2019年10月25日～2024年10月31日、日次)

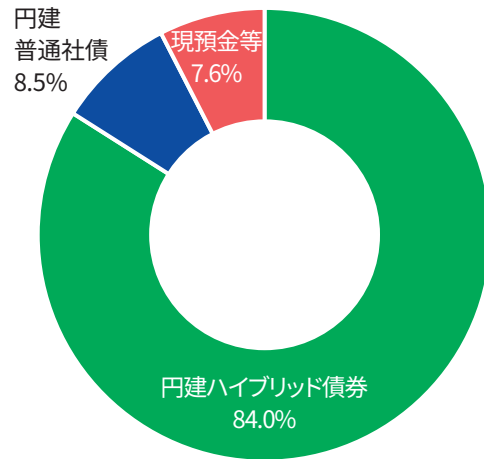


分配実績 (1万口当たり、税引き前)

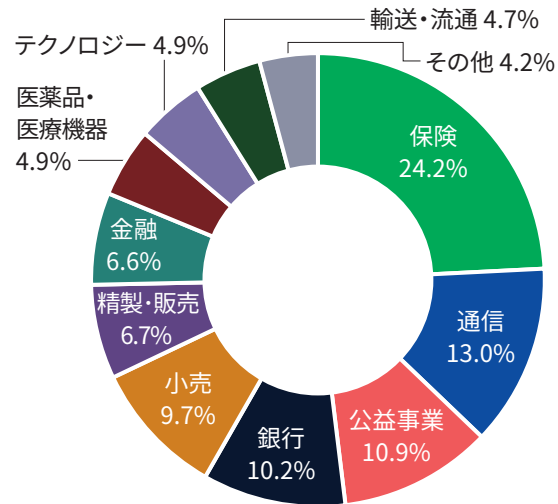
決算期	第1期 2020/10	第2期 2021/10	第3期 2022/10	第4期 2023/10	第5期 2024/10	設定来 合計
分配金	0円	0円	0円	0円	0円	0円

ポートフォリオの状況 (2024年10月末現在)

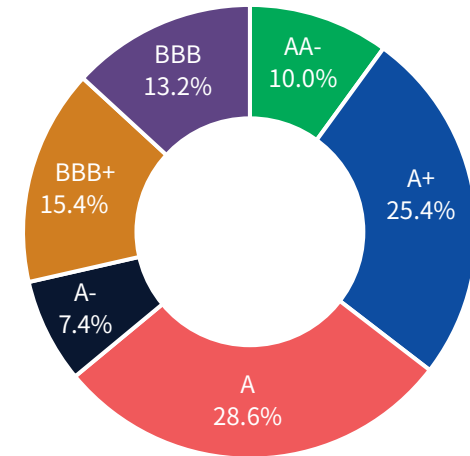
資産別構成比



業種別構成比



格付別構成比



<デリバティブ取引>

国債先物・金利スワップ	-10.9%
CDS	18.6%

※上記はマザーファンドのポートフォリオの状況を記載しています。

※数値を四捨五入しているため合計値が100%にならないことがあります。

■資産別構成比

※構成比は純資産総額に対する比率です。

※国債先物・金利スワップの数字がマイナスの場合は、国債先物の売建てと、変動金利受け取り・固定金利支払いの金利スワップ取引の合計を示しています。

※CDS(クレジット・デフォルト・スワップ)にはMarkit iTraxx Japan指数等を含みます。

CDSは、企業の信用リスクに対し保険のような役割を果たすデリバティブ取引のことで、企業の信用リスク拡大に伴う債券価格の下落リスクをヘッジするためなどに利用されます。

※CDSの数字がプラスの場合はプロテクションの買いを示しています。

※デリバティブ取引はヘッジ目的に限ります。

■業種別構成比、格付別構成比

※構成比は債券現物部分について計算しています。

※業種名はブルームバーグ債券分類システムの業種区分に準じて分類していますが、一部当社の判断に基づいて分類することがあります。

※組入債券の格付けは、R&I、JCR、S&P、Moody'sの銘柄格付けをもとに当社が独自の基準に基づき付与したものです。

出所：ブルームバーグのデータをもとにマニュライフ・インベストメント・マネジメント株式会社が作成

当資料のいかなる内容も将来の投資収益を示唆・保証するものではありません。「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

ポートフォリオの状況 (2024年10月末現在)

ポートフォリオ特性

最終利回り	2.11%
ロールダウン効果 (推計値)	0.82%
直接利回り	1.47%
平均クーポン	1.40%
残存年数	5.6年
修正デュレーション	4.0年
平均格付け	A
銘柄数	88

組入上位10銘柄

銘柄名	業種	格付け	クーポン	繰上償還日	償還日	組入比率
1 ENEOSホールディングス	精製・販売	A	1.310%	2036/06/15	2081/06/15	6.0%
2 パナソニックホールディングス	テクノロジー	BBB+	1.000%	2031/10/14	2081/10/14	4.5%
3 明治安田生命保険	保険	A+	0.880%	2031/08/02	2051/08/02	4.2%
4 日本航空	輸送・流通	BBB+	1.600%	2028/10/12	2058/10/11	3.8%
5 日本生命保険	保険	AA-	0.970%	2031/05/11	2051/05/11	3.5%
6 イオン	小売	BBB	1.740%	2030/12/02	2050/12/02	3.5%
7 第一生命ホールディングス	保険	A	1.124%	2031/03/17	永久債	3.3%
8 かんぽ生命保険	保険	A+	1.050%	2031/01/28	2051/01/28	3.2%
9 楽天グループ	小売	BBB	3.000%	2030/11/04	2060/11/04	3.1%
10 ソフトバンクグループ	通信	BBB+	3.000%	2026/02/04	2056/02/04	3.1%

※上記はマザーファンドのポートフォリオの状況を記載しています。

■ポートフォリオ特性

※特性値 (平均格付けを除く) はマザーファンドの数値を記載しています。平均格付けは債券現物部分について計算しています。

※最終利回り、修正デュレーションおよび残存年数については、償還日または繰上償還日を考慮して計算しています。

※組入債券の格付けは、R&I、JCR、S&P、Moody'sの銘柄格付けをもとに当社が独自の基準に基づき付与しており、平均格付けはこれらを加重平均して算出したものです。

※平均格付けは当ファンドおよび当マザーファンドに係る信用格付けではありません。

※ロールダウン効果 (推計値) は、1年後に発生しうる債券のキャピタルゲインであり、イールドカーブの形状が1年後も変化しないとの仮定のもとに当社が算出しています。将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。数値は、主要な円ハイブリッド債券から当社が推計した業種別イールドカーブを用いて、マザーファンド保有銘柄のキャピタルゲインを推計し、合計したものです。

■組入上位10銘柄

※業種名はブルームバーグ債券分類システムの業種区分に準じて分類していますが、一部当社の判断に基づいて分類することがあります。

※組入債券の格付けは、R&I、JCR、S&P、Moody'sの銘柄格付けをもとに当社が独自の基準に基づき付与したものです。

※繰上償還日は繰上償還可能日 (初回コール日) を記載しています。

※組入比率は純資産総額に対する比率です。

※当資料に記載された個別の銘柄・企業名は参考情報であり、当社が特定の有価証券等の取得勧誘や売買推奨を行うものではありません。また、将来の組入れを示唆または保証するものではありません。

出所：ブルームバーグのデータをもとにマニュライフ・インベストメント・マネジメント株式会社が作成

当資料のいかなる内容も将来の投資収益を示唆・保証するものではありません。「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

マニライフ・ファイナンシャル・コーポレーション

- ・マニライフ・ファイナンシャル・コーポレーション(マニライフ)は、1887年にカナダの初代首相ジョン・A・マクドナルド卿を社長として設立された長い歴史と伝統を誇るグローバル企業です。
- ・保険会社を中核とした金融グループならではの、財務の健全性、および長期的かつ安心感のあるソリューション提供力を兼ね備え、長きにわたりお客さまと信頼関係を構築しています。

名称	マニライフ・ファイナンシャル・コーポレーション
本社所在地	カナダ オンタリオ州 トロント
設立	1887年
従業員数	約3万8,000人(グループ全体)*1



約164兆円

森林、農地、インフラ投資などの非伝統資産も含めたグループ全体の運用管理資産総額*2です。



130年超

マニライフは2017年に創立130周年を迎えました。



120年超

1897年よりアジアで生命保険業を開始。アジアで120年超の歴史があります。



約7.5兆円

マニライフ・ファイナンシャル・コーポレーションの株式時価総額*3です。



カナダ初代首相

マニライフ初代社長は、カナダ初代首相ジョン・A・マクドナルド卿です。



**自然資本投資
世界最大級*4**

グループ全体の森林や農地などの自然資本への投資額は世界最大級です。

*1 2023年12月末現在

*2 保険会社、運用会社等、マニライフ・グループ全体の管理、運用する資産総額。2024年9月末現在、同時点の為替レートで円換算

*3 マニライフ・ファイナンシャル・コーポレーション(カナダ・トロント証券取引所)の株式時価総額。2024年9月末現在、同時点の為替レートで円換算

*4 2024年1月29日現在。森林および農地AUM(資産運用総額)を含む自然資本AUMの合計

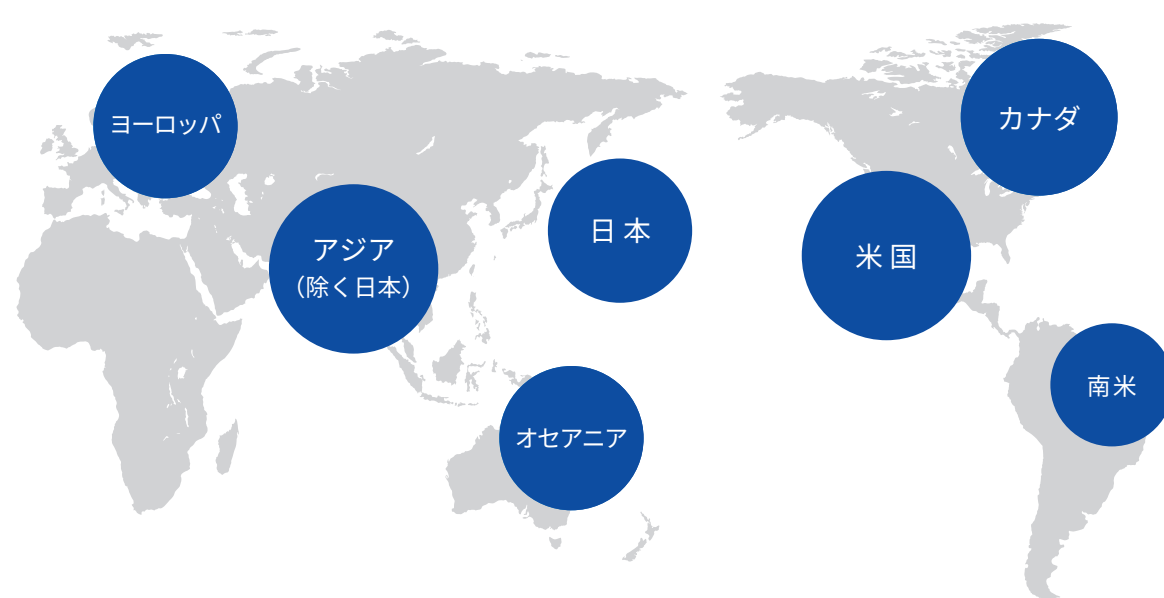
出所: マニライフ・ファイナンシャル・グループ、マニライフ・インベストメント・マネジメント、ブルームバーグ、IPEリサーチ

当資料のいかなる内容も将来の投資収益を示唆・保証するものではありません。「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

マニユライフ・インベストメント・マネジメント

- ・マニユライフ・インベストメント・マネジメントは、マニユライフ・ファイナンシャル・コーポレーションの資産運用ビジネス部門です。
- ・世界19カ国・地域に700名超の運用プロフェッショナルを配属し、グローバルな運用戦略・ソリューションをご提供しています。
年金基金、機関投資家、個人投資家の皆様の幅広いニーズにお応えするために、地域に根差した運用体制の強化に取り組んでいます。

主な運用拠点



運用拠点

19カ国・地域



運用プロフェッショナル

700名超



運用管理資産総額

約**73**兆円

※2024年9月末現在、運用管理資産総額は同時点の為替レートで円換算

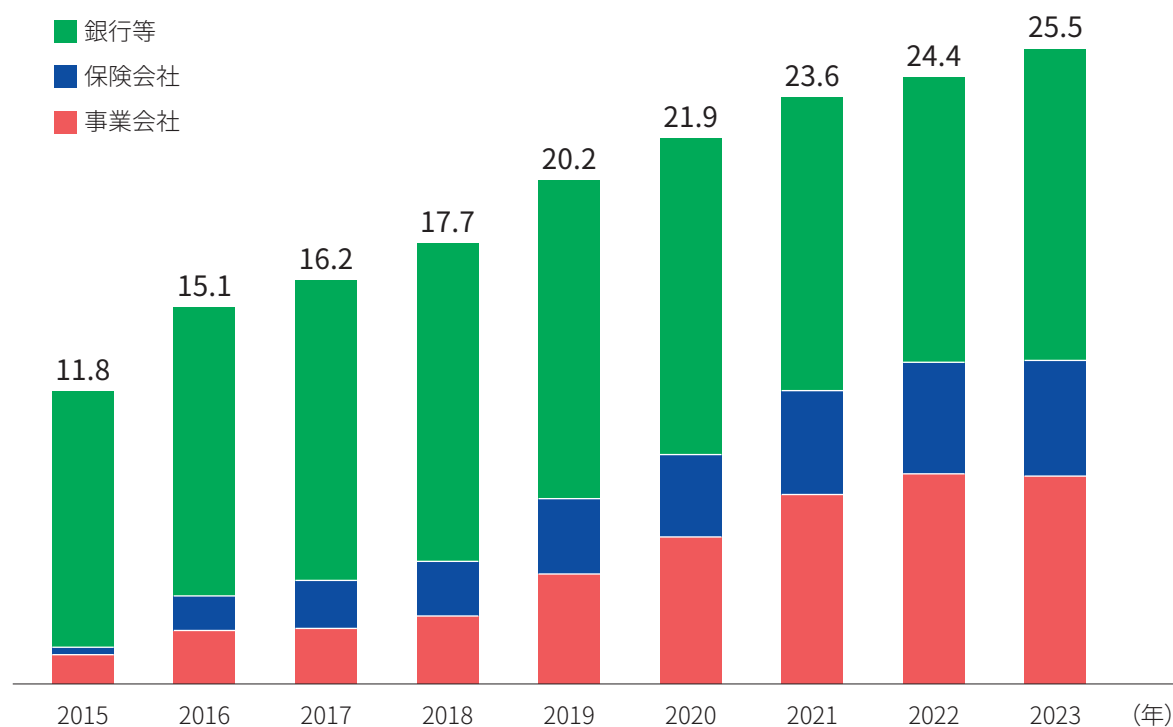
出所：マニユライフ・インベストメント・マネジメント

当資料のいかなる内容も将来の投資収益を示唆・保証するものではありません。「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

(ご参考)円建ハイブリッド債券の市場規模

- 円建ハイブリッド債券の発行額は年々拡大し、過去8年間で2倍超になっています。(2023年12月末現在)
従来、発行は銀行が中心でしたが、近年は保険会社や事業会社にも広がりを見せています。
- 2023年12月末の円建ハイブリッド債券の発行残高は約25.5兆円となり、Jリートの時価総額の約15.4兆円(同時点)を上回る水準となっています。
- 発行体と投資家、双方のニーズを背景に、今後も市場が拡大すると期待されます。

円建ハイブリッド債券の発行残高の推移 (2015年～2023年、年次、単位:兆円)



市場規模の比較 (2023年12月末現在)



円建ハイブリッド債券

約**25.5**兆円



Jリート

約**15.4**兆円

出所:ブルームバーグ、一般社団法人不動産証券化協会のデータをもとにマニユライフ・インベストメント・マネジメント株式会社が作成

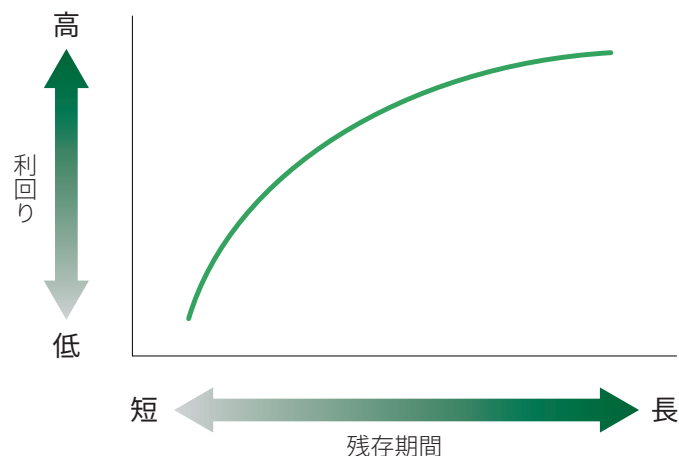
当資料のいかなる内容も将来の投資収益を示唆・保証するものではありません。「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

(ご参考) イールドカーブとロールダウン効果

イールドカーブ

- 同一発行体の債券の残存期間と満期までの利回りの関係を示す曲線を「イールドカーブ(利回り曲線)」と呼びます。
- 一般的に、残存期間が長いほど債券の利回りは高くなるため、イールドカーブは右肩上がり*1の形状となります。

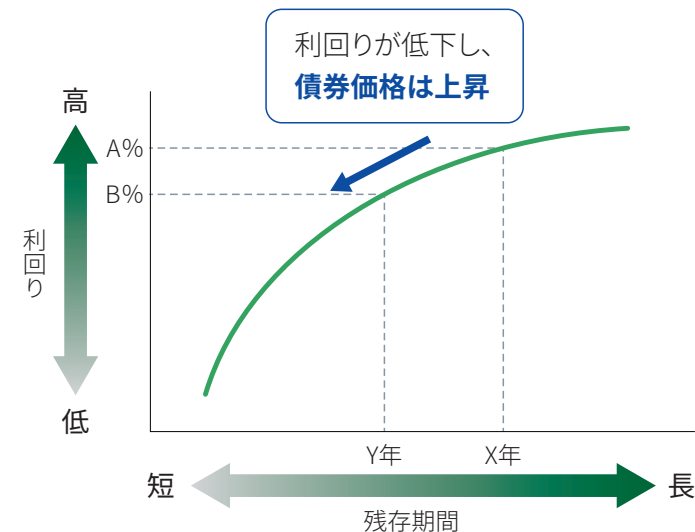
イールドカーブ



ロールダウン効果

- イールドカーブが右肩上がり*1の状態のときにX年からY年まで債券を保有すると、その形状に将来も変化がない場合、債券の利回りはA%からB%へ低下します。
- 利回りの低下に伴い債券価格は上昇し、キャピタルゲインが発生します。これを「ロールダウン効果」といいます。

ロールダウン効果



- イールドカーブの形状に傾斜があるほど、ロールダウン効果は大きくなります。
- ハイブリッド債券は国債等と比較して、一般的にイールドカーブの傾きが大きい
ため、より高いロールダウン効果が期待できると考えられます*2。

*1 右肩上がりとは、残存期間が長い債券ほど利回りが高いことを指します。金融政策や景気動向などにより、右肩下がりや水平の形状になることもあります。

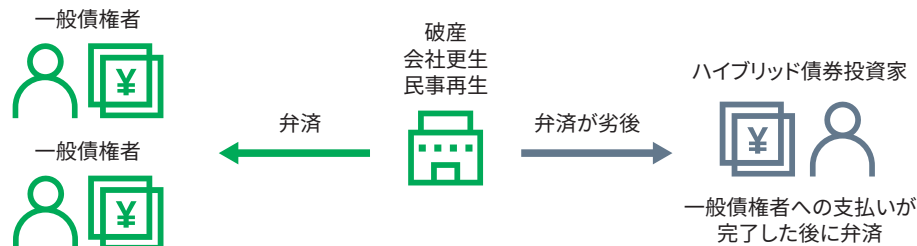
*2 2024年10月末現在の当社の見解です。将来イールドカーブの形状が変化した場合、ロールダウン効果が得られない、またはキャピタルロスが発生することがあります。

※上記は当社が説明のために作成したイメージ図です。

(ご参考)ハイブリッド債券固有のリスク

① 弁済の劣後

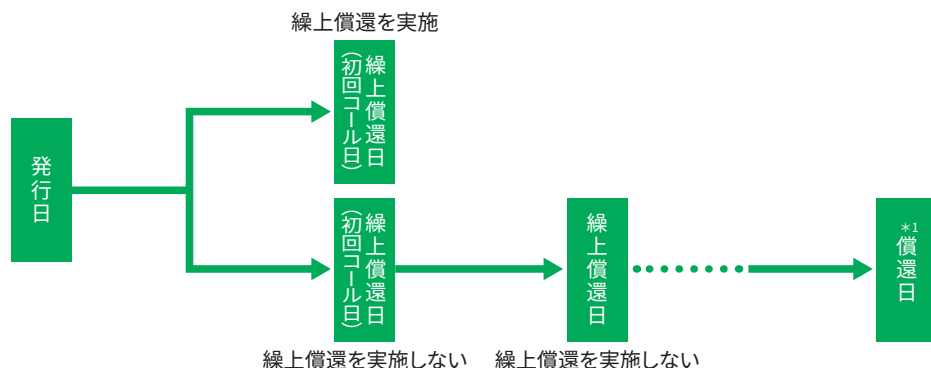
ハイブリッド債券は発行体が法的整理や破綻処理等に至った場合に、一般の債権者よりも債務弁済の順位が劣後します。



② 繰上償還の延期(コール・スキップ)

ハイブリッド債券には、定められた期日に繰上償還(コール)する条項が付されているものがあります。ただし発行体は、その裁量により繰上償還を見送ること(コール・スキップ)が出来ます。

一般的にハイブリッド債券は繰上償還を前提に価格形成がされているため、発行体が繰上償還を見送った場合、債券価格が大きく下落することがあります。



*1 一部、無期限の場合もあります。

*2 「偶発条件」に該当する事象としては、経営破綻や監督当局により実質的に破綻していると認定された場合、発行体の自己資本比率が一定基準を下回った場合などがあります。

※ 上記は当社が説明のために作成したイメージ図です。

③ 利息の繰延べまたは停止

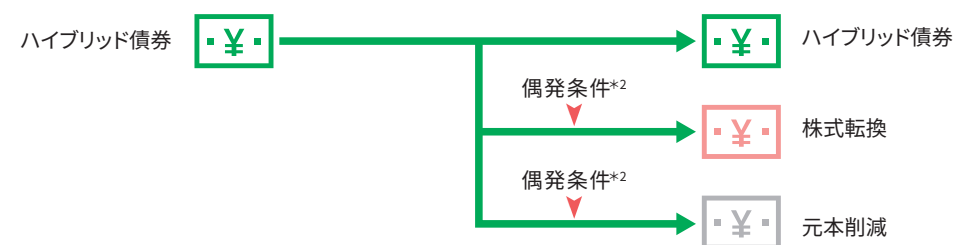
ハイブリッド債券には、発行体の裁量により利息の支払いが繰り延べられたり、停止される可能性があります。



④ 元本削減または株式転換

一部のハイブリッド債券には、一定の偶発条件*2が発生した場合、元本の一部または全部が削減されたり、強制的に株式に転換されるものがあります。

それらが実施された場合には損失が一旦確定し、ファンドの基準価額は影響を受け、大きく損失を被ることがあります。なお、普通株式に転換された場合には、株価変動リスクを負うことになります。



(ご参考) ハイブリッド債券固有のリスクへの対応

- ・ハイブリッド債券固有のリスクを低減させるため、当戦略の運用チームは以下の3つの対策を講じています。

①信用状況のモニタリング

- ・クレジット・アナリストが発行体の信用状況を随時モニタリングしています。
- ・信用力低下の兆候があると判断した場合には売却等の措置を講じます。

②コール・スキップ・リスクの評価

- ・当運用チームでは、コール・スキップの可能性を体系的に評価する体制を整えています。
- ・当ファンドでは、コール・スキップ・リスクに応じて銘柄を選別して投資します。

③コール期限の6ヵ月前までに売却

- ・繰上償還が実施されない場合、あるいは実施されないと見込まれる場合に備え、当ファンドでは、原則、繰上償還日(コール日)の6ヵ月前までに保有銘柄を売却します。

※リスク管理によりすべてのリスクが低減されるものではありません。

※将来の市場環境の変動等により、運用方針が変更される場合があります。

当資料のいかなる内容も将来の投資収益を示唆・保証するものではありません。「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

ファンドの特色

1 主として相対的に高い利回りが期待できる円建てのハイブリッド債券*に投資します。

- 円ハイブリッド債券インカム・マザーファンド受益証券(以下「マザーファンド」ということがあります。)への投資を通じて、主として日本企業が発行する円建てのハイブリッド債券に投資を行います。
- 円建てのハイブリッド債券を主な投資対象としますが、市場動向等によっては円建ての普通社債、日本国債等に投資する場合があります。

※市場環境等により、純資産総額の30%を上限として日本企業が発行する外貨建てのハイブリッド債券に投資する場合があります。

その際は、実質的に円建てとなるように為替ヘッジを行います。

※金利変動リスクや信用リスクを抑制するため、デリバティブ取引を利用する場合があります。

*ハイブリッド債券とは、債券(負債)と株式(資本)の双方の特徴を有する債券で、資金調達のほか自己資本比率を向上させること等を目的として発行されるものです。

発行体が法的整理や破綻処理等に至った際の債務の弁済順位が、一般の債権者よりも劣後することから劣後債とも呼ばれます。

普通社債と比べても債務の弁済順位が劣るため、通常は同じ発行体が発行する普通社債と比べて格付けが低くなる一方で、利回りは相対的に高くなります。

※資金動向・市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

当資料のいかなる内容も将来の投資収益を示唆・保証するものではありません。「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

ファンドの特色

2 原則として、投資するハイブリッド債券の格付けは投資適格以上とします。

- ハイブリッド債券の格付けは、取得時においてBBB格付け相当以上
(R&I、JCR、S&PのいずれかでBBB-以上またはMoody'sでBaa3以上)とします。

3 決算頻度が異なる「3ヵ月決算型」と「年1回決算型」からお選びいただけます。

<3ヵ月決算型>

毎年1、4、7、10月の各25日(休業日の場合は翌営業日とします。)に決算を行い、
利子・配当等収益を中心に安定した分配をめざします。

<年1回決算型>

毎年10月25日(休業日の場合は翌営業日とします。)に決算を行い、
信託財産の成長を重視して分配金額を決定します。

将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆・保証するものではありません。
分配対象額が少額の場合等には、委託会社の判断で分配を行わないことがあります。

※資金動向・市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

当資料のいかなる内容も将来の投資収益を示唆・保証するものではありません。「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

投資リスク 詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)にてご確認ください。

基準価額の変動要因

当ファンドは、マザーファンドを通じて値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額はその影響を受け変動します。

投資信託は預貯金と異なり、投資元本は保証されているものではありません。
また、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割込むことがあります。
ファンドの運用による利益および損失は、すべて投資者(受益者)の皆様に
帰属します。

主な変動要因

金利変動リスク

公社債等の価格は、金利変動の影響を受け変動します。一般的に金利が上昇した場合には公社債等の価格は下落します。組入公社債等の価格が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

信用リスク

公社債等の価格は、発行体の信用状況によっても変動します。発行体が債務不履行を発生させた場合、またはその可能性が予想される場合には、公社債等の価格は下落します。また、投資している有価証券等の発行企業の倒産、財務状況または信用状況が悪化した場合、もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等の影響を受け、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

ハイブリッド債券固有のリスク

一般的に、ハイブリッド債券は普通社債等に比べて市場規模や取引量が小さく、流動性が低いため、市場実勢から期待される価格で売買できない可能性があります。この場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

[弁済の劣後]

一般的に、ハイブリッド債券の法的弁済順位は普通社債に劣後します。したがって、発行体が倒産等となった場合、他の優先する債権が全額支払われない限り、ハイブリッド債券は元利金の支払を受けられません。また、一般的に普通社債と比較して低い格付けが格付機関により付与されています。

[繰上償還の延期]

一般的に、ハイブリッド債券には繰上償還(コール)条項が設定されており、繰上償還の実施は発行体が決定することとなっています。予定された期日に繰上償還が実施されない場合、あるいは実施されないと思込まれる場合には、当該ハイブリッド債券の価格が大きく下落することがあります。

[利息の繰延べまたは停止]

ハイブリッド債券には利息の支払繰延条項を有するものがあり、発行体の財務状況や収益の悪化等により、利息の支払いが繰延べまたは停止される可能性があります。

[元本削減または株式転換]

一部のハイブリッド債券には、経営破綻や監督当局により実質的に破綻していると認定された場合、発行体の自己資本比率が一定基準を下回った場合等に、元本の一部または全部が削減されたり、強制的に株式に転換されるものがあります。それらが実施された場合には損失が一旦確定し、ファンドの基準価額は影響を受け、大きく損失を被ることがあります。なお、普通株式に転換された場合には、株価変動リスクを負うことになります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

投資リスク 詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)にてご確認下さい。

主な変動要因

特定業種への集中投資リスク

当ファンドは、実質的に特定の業種に関連する企業が発行するハイブリッド債券を投資対象とする場合があるため、幅広い業種に分散投資を行うファンドと比較して基準価額の変動が大きくなる可能性があります。

流動性リスク

有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下で取引を行えない、または取引が不可能となる場合は、市場実勢から期待される価格で売買できない可能性があります。この場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

為替変動リスク

組入外貨建資産について、原則として対円での為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではなく、円と投資対象通貨の為替変動の影響を受ける場合があります。なお、為替ヘッジを行う場合、円金利が当該外貨の金利より低い場合には、その金利差相当分のコストがかかります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- ・ 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- ・ 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受け付けが中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。
- ・ 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。また、分配金水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

お申込みメモ 詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)にてご確認ください。

※三菱UFJ銀行でお申込みの場合

購入単位	分配金再投資コース(累積投資コース): 1万円以上1円単位 購入単位には購入時手数料(税込)が含まれます。 再投資される分配金については、1口単位とします。 ＜投資信託口座＞ 投信つみたて(継続購入プラン): 1万円以上1円単位 (上記以外の購入単位でのお取扱もごさい。 くわしくは三菱UFJ銀行のホームページをご覧ください。) ＜金融商品仲介口座＞ 投信積立: 1万円以上1千円単位
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。 ※基準価額は1万口当たりで表示されます。
換金単位	投資信託口座: 1円以上1円単位、または1口以上1口単位、または全部。 金融商品仲介口座: 1口以上1口単位、または全部。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目にお支払いします。
購入・換金 申込不可日	ニューヨークの銀行、ロンドンの銀行のいずれかが休業日の場合には、購入・換金はできません。
申込締切 時間	原則として、購入・換金の申込みに係る、販売会社所定の事務手続きが午後3時30分までに完了したものを当日の申込受付分とします。 なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳細は販売会社にご確認ください。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口換金については、委託会社の判断により換金金額や換金受付時間に制限を設ける場合があります。
購入・換金 申込受付の 中止および 取消し	委託会社は、金融商品取引所等の取引停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込の受付を中止することおよびすでに受付けた購入・換金申込の受付を取消すことがあります。

信託期間	原則として、無期限です。(2019年10月25日設定)
繰上償還	各ファンドにつき信託財産の純資産総額が30億円を下回る こととなった場合、信託契約を解約することが受益者のため 有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生し たときは、受託会社と合意の上、委託会社の判断により繰上 償還を行う場合があります。
決算日	＜3ヵ月決算型＞ 毎年1、4、7、10月の各25日(休業日の場合は翌営業日)とします。 ＜年1回決算型＞ 毎年10月25日(休業日の場合は翌営業日)とします。
収益分配	毎決算時に収益分配方針に基づいて分配を行います。収益 分配額は、委託会社が基準価額の水準・市況動向等を勘案し て決定します。 (販売会社によっては分配金の再投資が可能です。詳細は販 売会社までお問い合わせ下さい。) ※将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆・保証するものではありません。 ※分配対象額が少額の場合等には、委託会社の判断で分配を行わないことがあ ります。 ※収益分配金は税金を差引いた後、原則として再投資されます。 ※分配金を再投資せず、お客さまの指定口座にご入金するお取扱いを希望され る場合は、分配金出金(定期引出契約)をお申込みください。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に NISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。 当ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の 対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。 詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。

「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

ファンドの費用 詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)にてご確認ください。

※三菱UFJ銀行でお申込みの場合

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入金額(購入価額×購入口数)×手数料率で得た額 手数料率は、購入代金(購入金額+購入時手数料(税込))に応じて右の率とします。 ※インターネット取引でご購入の場合は、右記手数料率から10%優遇 (投信つみたて(継続購入プラン)・投信積立を除く)。 ＜投資信託口座＞投信つみたて(継続購入プラン)：つみたて回数に応じて右記手数料率 から段階的に優遇(くわしくは三菱UFJ銀行ホームページをご覧ください。) ＜金融商品仲介口座＞投信積立：右記手数料率から30%優遇	購入代金	手数料率
		1億円未満	0.55%(税抜0.50%)
		1億円以上	かかりません

信託財産留保額 ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬) 毎日のファンドの純資産総額に**年率0.594～0.770%(税抜0.54～0.70%)**を乗じて得た額とします。

信託報酬の配分(税抜) 信託報酬＝運用期間中の基準価額×信託報酬率

新発10年固定

利付国債の利回り 委託会社 販売会社 受託会社 合計

0.5%未満の場合 0.26% 0.26% 0.02% **0.54%**

0.5%以上
1%未満の場合 0.30% 0.30% 0.02% **0.62%**

1%以上の場合 0.34% 0.34% 0.02% **0.70%**

*信託報酬率は、毎年3月および9月の最終営業日における日本相互証券株式会社の発表する新発10年固定利付国債の利回り(終値)にて判定し、当該最終営業日の翌月の21日以降で、前日が営業日である最初の営業日から適用するものとします。

その他の費用・手数料

- 法定書類等の作成等に要する費用、監査費用等は、ファンドの純資産総額に対して**年率0.2%(税込)**を上限として合理的に見積もった額が毎日計上され、ファンドから支払われます。
- 組入有価証券等の売買にかかる売買委託手数料、信託事務の諸費用等は、ファンドからご負担いただきます。これらの費用は、運用状況、保有期間等により変動するため、事前に料率、上限額等を記載することができません。

※運用管理費用(信託報酬)を対価とする役務の内容

委託会社：ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、基準価額の算出等の対価

販売会社：運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価

受託会社：運用財産の管理、委託会社からの指図の実行等の対価

※ファンドの費用の合計額については、運用状況および保有期間等により異なるため、事前に合計額または上限額あるいは計算方法を記載できません。

※税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。

「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

委託会社、その他の関係法人

委託会社 (設定・運用等)

マニユライフ・インベストメント・マネジメント株式会社

受託会社 (信託財産の保管および管理等)

三菱UFJ信託銀行株式会社

販売会社 (募集・換金の取扱い・目論見書・運用報告書の交付等)

[投資信託口座を通じたお取扱いの場合] 株式会社三菱UFJ銀行

[金融商品仲介口座を通じたお取扱いの場合] 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社

(金融商品仲介業務等を行う登録金融機関:株式会社三菱UFJ銀行)

他の販売会社につきましては、次の照会先までお問い合わせ下さい。

マニユライフ・インベストメント・マネジメント株式会社 ホームページ: www.manulifeim.co.jp/

ご留意いただきたい事項

- 当資料は、マニユライフ・インベストメント・マネジメント株式会社 (以下「当社」といいます。) が作成した販売用資料です。
- お申込みにあたっては、販売会社よりお渡する投資信託説明書 (交付目論見書) の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。
- 投資信託は、預金等や保険契約と異なり、預金保険機構または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、預貯金と異なり元本や利回りの保証はありません。銀行などの登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報に基づいておりますが、当社がその正確性、完全性を保証するものではありません。

- 当資料の記載内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更される場合があります。
- 当資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料に記載された個別の銘柄・企業名は参考情報であり、当社がこれらの銘柄について取得勧誘や売買推奨を行うものではありません。また、将来の組入れを示唆または保証するものではありません。
- 当資料で使用している指数等に係る著作権等の知的財産権、その他一切の権利は、当該指数等の開発元または公表元に帰属します。
- 当資料に記載された見解・見通し・運用方針は作成時点における当社の見解等であり、将来の経済・市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。